

地域素材を効果的に活用したふるさと教育の実践
 ～日本遺産「炭鉄港」の活用と地域との連携・協働による授業づくり～
 岩見沢市立中央小学校 学級数 16 (校長 喜多 慎治)

I 実践テーマの趣旨

本校では、今年度、コミュニティ・スクールとして「地域とともにある学校」に向けた活動を「地域のすべてが学びのフィールド・地域みなさんが子供たちの先生」をスローガンにスタートし、地域住民・保護者との連携・協働により推進している。

特に第6学年では、日本遺産「炭鉄港」を素材とした総合的な学習の時間の学習を通して、ふるさとに愛着と誇りを育む授業づくりを実践している。

II 実践の概要

1 日本遺産「炭鉄港」を素材とした総合的な学習の時間におけるふるさと教育の実践

(1) 課題の設定	外部講師による「岩見沢の歴史」講演会の開催 ・外部講師を招き、岩見沢の発展と鉄道の関係性や発展に貢献した人々などについての講演会を実施し、講演の内容から本題材の課題設定を行った。
(2) 情報の収集①	「炭鉄港フィールドワーク」の実施 やま ・岩見沢駅舎、JRレールセンター、そらち炭鉱の記憶マネジメントセンターを学びのフィールドとすることで、専門家による説明をもとに、課題解決に必要な情報を集めた。
(3) 情報の収集②	小樽・室蘭・鹿児島を結んだ「炭鉄港リモート学習会」の開催 ・一般社団法人岩見沢青年会議所と連携し、小樽総合博物館、室蘭観光協会、鹿児島県尚古集成館と本校をオンラインでつなぎ、他地域の町の歴史や炭鉄港との関わりについて説明を聞いたり、質問したりすることで、それぞれの町の歴史や発展の特徴について情報を収集した。
(4) 整理・分析	小樽での「炭鉄港フィールドワーク」の実施 ・集めた情報の整理・分析の中で新たに生まれた疑問点について、修学旅行の行程に小樽での研修を位置付け、小樽総合博物館等の見学を通して、学びを深めた。
(5) まとめ・整理	「学習成果発表会」の開催 ・学習の成果をまとめ、外部講師や他の学年に向けた発表会を行うことで、児童はふるさとへの愛着を育んだ。

2 地域住民とともに作る授業の推進

(1) 地域コーディネーターの位置付け

本校では、地域コーディネーターを学校運営協議会（地域人材）の委員に依頼することで、地域コーディネーターと連携し、総合的な学習の時間の計画の立案を通して、目指す児童の姿や学習のねらいを共有し、学習活動に必要な外部人材や見学場所を確保するなど、地域との連携・協働を進めている。

(2) 地域に発信する工夫

昨年度は、本授業の学習のまとめを創作劇で表現し、市民広場「イベントホール赤れんが」で多くの市民に発表した。今年度の発表会についても、校内での発表にとどめることなく、発表場所の工夫やWebページの活用で学びを広く地域に伝える工夫を行う。



【リモート学習会の様子】

III 実践の成果と課題

- 地域コーディネーターと連携し、広く地域の人的、物的教育資源を活用したふるさと教育を実践することで、児童にふるさと岩見沢への愛着を育むことができた。
- 地域素材をさらに有効活用するために、教育課程上の位置付けや工夫を行う必要がある。

地域素材を効果的に活用した教育実践〈日本遺産「炭鉄港」〉 ～生まれ育ったふるさとに愛着と誇りをもつ授業づくり～ 芦別市立上芦別小学校 学級数 10 (校長 坪江 潤)

I 実践テーマの趣旨

本校では、生まれ育ったふるさとに愛着と誇りをもち、変化の激しい予測不可能なこれからの時代をたくましく生き抜く力を育むため、地域素材を効果的に活用した教育実践に取り組んでいる。

令和元年5月に近代北海道を築く基となった三都（空知・室蘭・小樽）を石炭・鉄鋼・港湾・鉄道というテーマで結び、人と知識の新たな動きを作り出そうとする取組である「炭鉄港」が日本遺産に認定され、本校がある芦別市も炭鉄の歴史があることから、この「炭鉄港」を教材とした総合的な学習の時間「北海道産業遺産の物語」の学習を通して、ふるさとの価値を子どもたちに伝え、地域の未来を考えることで、ふるさとへの愛着と誇りを育む授業実践に取り組むこととした。

II 実践の概要

1 ふるさとに愛着と誇りをもたせる授業実践

単元の導入として、石炭と芦別市の関わりについて次の観点から探求させた。

- ・時代によって暮らしが豊かになっていることを資料から考え、石炭は、芦別市をはじめとする空知地方との関係が深いことや生活の豊かさは空知地方で産出された石炭が支えていたことを確認する。
- ・時代ごとの市内住宅地帯の資料を活用し、商店の種類や住宅地の配置から、石炭採掘最盛期の芦別市が栄えていたことを知り、なぜ産業が衰退したのかについて予想する。

また、鉄鋼と港の学習として重要な室蘭と小樽の学習は、修学旅行を活用し、次の観点から探求させた。

- ・鉄道ができた背景について、石炭の採掘地をもとに予想し、室蘭に石炭が運ばれるようになった理由について調べる。
- ・港については、小樽の港湾の沿革や構成文化財、産業景観について調べることで鉄道が敷設された理由と関連させ、炭鉄港の歴史がそれぞれ北海道の発展に寄与してきたことを学ぶことができた。



【新旭炭鉱高根沢露天坑】

2 地域の人的・物的素材を活用した学習

芦別市にある新旭炭鉱高根沢露天坑は、露天掘りのため、どのように石炭採掘を行っているのか、実際に見学をすることができる。児童は、露天坑の規模や作業車の大きさなど、ふるさとの発展を支えた産業について実感をもって理解を深めることができた。

また、市役所職員をゲストティーチャーとして招き、旧三井芦別鉄道炭山川橋梁や旧頼城小学校校舎をはじめ、西芦別駅前商店街や炭鉱職員住宅などの炭鉱遺産についての説明を通して、当時の生活の様子や旧駅舎や旧線路跡が石炭を運ぶために鉄道が敷かれていたことについても理解することができた。



【自走枠整備工場の見学の様子】

さらに、「東洋一」と謳われた旧住友赤平炭鉱立坑櫓のヤード内部や、実際に炭鉱で使用されていた大型掘削機械等を展示している自走枠整備工場の見学を行うことで、炭鉱マンの働く様子や石炭産業が衰退した背景について学習を深めることができた。

学習のまとめとして、これからの芦別市についてグループでまとめ、提言を行った。

III 実践の成果と課題

- 授業後の児童アンケートにおいて、「自分が住んでいる北海道や芦別市は好きか」の設問に対して、全ての児童が肯定的に回答し、日本遺産「炭鉄港」の学習を通して、子どもたちにふるさとに対しての愛着を育むことができた。
- 児童がより主体的に学ぶために、さらなる教材開発や教育課程上の位置付けの工夫を行う必要がある。

豊かな人間性を育む教育実践

～ふるさとに愛着と誇りをもつ「サケ学習」を通して～

標津町立標津小学校 学級数 12 (校長 齋藤 征志)

I 実践テーマの趣旨

令和2年6月、根室管内1市3町で申請した『鮭の聖地』の物語～根室海峡一万年の道程～が、日本遺産に認定された。標津町が面する根室海峡は、遙か昔から絶えず人々の暮らしが続き、人・自然・文化における数々の物語が形成されてきた。その支えとなったのは、あらゆる生命の糧となった鮭であり、現在においても町の産業や生活・文化の中核をなしている。

こうした中、鮭を地域の素材として扱い、本校の子どもたちに、生まれ育ったふるさとに愛着と誇りをもたせるとともに、地域の課題について主体的に考え、解決しようとする力を育成することをねらいとして、総合的な学習の時間を中心に実践を行った。

II 実践の概要

1 資質・能力を育む指導計画

本校における「サケ学習」は、第2学年から第6学年まで位置付け、鮭の成長と関連付けた構成と体験プログラムにより、子どもたちがより主体的に学ぶことを意図して計画した。

学年	育成する資質・能力	学習課題	地域人材・素材を活用した体験学習
2年	鮭の稚魚の特徴や自然環境について理解し、観察等を通して集めた情報を整理してまとめるとともに、鮭と地域との関連に気付き、自ら関わろうとしている。	サケの誕生について調べよう	鮭の卵・孵化の観察
3年	鮭の稚魚の特徴や自然環境について理解し、体験等を通して集めた情報を整理してまとめるとともに、鮭と地域の自然環境との関連に気付き、自ら関わろうとしている。	私たちのサケが旅立つ様子について調べよう	稚魚観察会 鮭の稚魚放流
4年	鮭の生態や自然環境について理解し、体験等を通して集めた情報を整理してまとめるとともに、鮭と地域との関連に気付き、自ら関わろうとしている。	私たちのサケが成長する様子について調べよう	サーモン科学館見学
5年	鮭の行動と地域の自然環境との関連について理解し、体験等を通して集めた情報を整理してまとめるとともに、鮭と地域との関連に気付き、自ら関わろうとしている。	私たちのサケが帰ってくる様子について調べよう	漁業体験 鮭の遡上見学 産卵行動見学
6年	鮭に関わる人の営みについて理解し、体験等を通して集めた情報を整理してまとめるとともに、鮭と地域社会との関連に気付き、自ら関わろうとしている。	私たちのサケの命をつなげる様子について調べよう	鮭の人工授精体験

2 地域人材・資源を活用した体験学習

「サケ学習」において、探究活動の充実に向けた大きな役割を果たしているのは、地域の自然の活用や関係機関等との連携である。地域住民に教わる体験や、地域の素材と触れ合う体験が、主体的な学びを促進している。また、地域の素材を活用することで、地域への関心や地域へ貢献しようとする意識の高まりが見られた。



【第3学年稚魚観察会】



【第4学年サーモン科学館見学】



【第5学年鮭の遡上見学】



【第6学年人工授精体験】

III 成果と課題

- 日本遺産に指定された地域の素材である「鮭」を学習のテーマとして扱うことで、地域への関心が高まり、ふるさとに対する愛着と誇りをもつことができた。
- 探究的な見方・考え方を働かせながら横断的・総合的な学習に取り組めるよう、地域の産業や歴史等に視野を広げていくことができる指導計画に改善する必要がある。